

公立病院経営強化プラン（当該病院の果たすべき役割・機能等）の概要

施設名	市立大洲病院												
所在地	大洲市西大洲甲570番地												
経営強化プランの対象期間	令和 6 年度 ~ 令和 9 年度												
許可病床数(床)		一般病床	療養病床	精神病床	結核病床	感染症病床	計						
	開設許可	142	0	0	8	0	150						
	使用許可	142	0	0	8	0	150						
機能別病床数(床)		高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等	計						
	R4年	0	101	41	0	0	142						
	R7年	0	101	41	0	0	142						
	R_年※	0	101	41	0	0	142						
※プランの最終年度における当該公立病院の機能ごとの病床数													
令和7年(2025年)以降において担う役割		がん	脳卒中	心血管疾患	糖尿病	精神疾患	救急	災害	周産期	小児	感染症	在宅	計
	R4年	○	○	○	○		○	○			○	○	8
	R7年	○	○	○	○		○	○			○	○	8
	R_年※	○	○	○	○		○	○			○	○	8
（その他の内訳及び補足等）がんについては消化器・泌尿器分野、脳卒中、心血管疾患は軽度に対応。感染症へは結核病棟を利用。在宅は訪問看護をステーション化。病床数・病床機能は計画に見直しを行うためまだ具体的な数値はない。													
※プランの最終年度における当該公立病院の機能ごとの病床数													
※R8年以降に病床機能の見直し予定がある場合は、見直し後の見込みを記載。													
地域医療構想等を踏まえた当該病院の果たすべき役割・機能	救急医療については引続き輪番病院の役割を果たせるよう体制維持に努める。在宅医療については、訪問看護ステーションを開設。以降、訪問リハビリテーション、居宅介護支援事業所の開始を検討する。												
地域包括ケアシステムの構築に向けて果たすべき役割	介護機関・地域包括支援センターとの連携強化。訪問看護部門のステーション化等訪問看護分野の強化。従来からの実施している嘱託医師の派遣による施設入所者の健康管理等医療・介護両面からシステムを支える。												
機能分化・連携強化の取組	急性期機能を維持しつつ、回復期、在宅ケアに注力する。連携強化としては圏域内の夜間2次救急の維持、昼間の2次救急、一般診療においては地域内での紹介を推進。高度急性期等に流れた患者の回復期移行後の受け入れ実施。												
医療機能や医療の質、連携の強化等に係る数値目標	令和9年度における目標値。医療機能 救急患者への受け入れ2000人、訪問看護件数2160件 連携強化 紹介件数900件、逆紹介件数650件、返書率100% その他 臨床研修医は臨床研修協力病院として毎年の受け入れ、その他医療実習生の受け入れ 年12回 健康・医療相談 年850件												
住民理解のための取組	本計画策定段階でのパブリックコメントの実施及び計画実行後の点検・評価の結果公表。また、患者からの意見把握のため意見箱の設置、アンケートの実施を行う。												

※いずれも、経営強化プランに記載予定の内容を記入すること